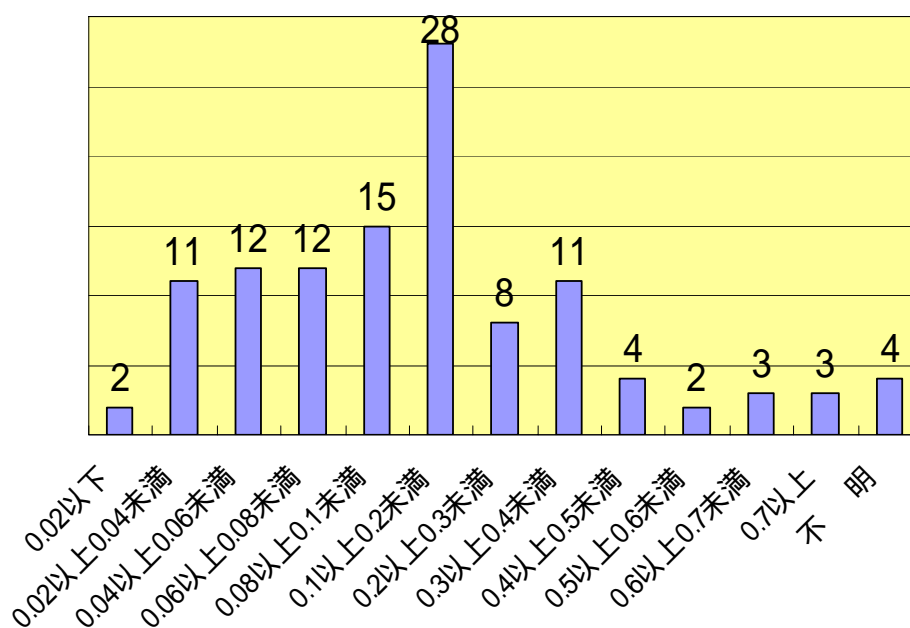


全国の弱視学級において拡大教科書を使用している児童生徒の視力の分布



- ・ 拡大教科書を使用している児童生徒の視力分布をみますと、視力値 0.1～0.2 までが最も多く、その前後の視力値(0.08～0.2)で全体の約 37%を占めています。この結果は、拡大教科書の作成方針の一つである「視力 0.1 程度の児童生徒をその主な使用対象とする」という当初の想定と合致する結果となっています。
- ・ 同様に、拡大教科書を使用している児童生徒の視力分布から、視力 0.02～0.4 までの児童生徒が全体の 8 割以上を占めており、非常に幅広い視力の範囲で拡大教科書が使用されていることがわかります。このことは、単純に視力という視機能に限定した場合、たとえ 0.1 以下の視力であっても、弱視レンズや拡大読書器などの視覚補助具を用いることにより、拡大教科書を使用していることが推測されます、逆に 0.4 以上では使用の必要性がそれほど高くないとも考えられます。